



つつしが丘小学校  
学校だより

つつじ

平成29年1月10日(火)



## 謹賀新年～成人への道～

校長 上田 祥市

新年明けましておめでとうございます。

春のような穏やかな年の始まりとなりました。保護者・地域の皆様には、旧年中、本校の教育活動に温かいご理解とご支援を賜り、ありがとうございました。本年もよろしく願います。

さて、1月9日に昭島市の成人式がフォレストイン昭和館で盛大に行われ、私も式に出席しました。第2部では恩師との歓談があり、玉川小学校で担任をしていた時の教え子たちと久しぶりに再会しました。ちょっと恥ずかしそうにスーツのポケットに手を突っ込んでいる男の子たちと艶やかな振り袖姿の女の子たち。小学校時代の面影が残つつも一人一人の成長した晴れやかな笑顔を見るとき、教師としての喜びが沸き上がってきます。大学で青春を謳歌している子、夢に向かって仕事を頑張っている子、悩みながらも一歩前に進もうともがいている子…残念ながら出席できなかった子供たちの近況や連絡先をお互いに教え合い、春に行われるらしい同窓会での再会を約束して別れました。

現在は1月の第2月曜日となっている成人の日ですが、元々は、1948年に「1月15日は、大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ます日」と法律で定められました。新成人達が両親や周りの大人達に保護されてきた子供時代を終え、自立し、大人の社会へ仲間入りすることを自覚するための儀式（成人式）を行う日です。

しかし何故、成人の日を祝日にしたのでしょうか。一説によると、戦後物資も食料も足りない時

代で一番乏しいとされていたのは「人材」でした。良い「国家」を作っていくためには、国民自身が成長していかななくてはならないと考えた当時の役人たちは、「子供から大人になった自覚をもってほしい」と願ってこの日を祝日にしたそうです。

昭島市の成人式では、新成人の皆が場をわきまえて参加していましたが、各地での成人式の様子をニュースで見ると、非常識な行為を行う一部の新成人がいることを残念に思います。意味をはき違えた自立できない成人。社会的な責任を考えず大人の自覚がもてない成人。「目立ちたい」という意識の奥には、自分への自信のなさや不安がきつとあるのでしょうか。

成人の日にすぐに大人になるわけではありません。私たちは、教育の場で働く者として、改めて「成人」という言葉の意味を考えると同時に、どうしたら一人一人が自立していくステップを創り上げていけるのかを考えます。小学校時代で子供たちの自立の芽に気付き、励ましながら育て、チャレンジを応援し、「自分でできた」という自信と喜びを感じさせたい。その自立心は、中学校での夢の実現に向けた更なる高みへのチャレンジと発展し、高校や大学、または社会での様々な経験によって成熟していくものだと思います。

学校も保護者も地域も、子供たちを自立させていく大人として義務があります。お互いに連携し、子供たち一人一人が自分らしく自信をもって歩いていけるよう、「成人への道」を照らしだす明かりとなりたいと思います。